

**右京区基本計画策定委員会**  
**第2回 魅力ある都市環境のまちづくり部会 摘録**

日 時： 平成21年8月10日(月)  
午後6時30～午後9時  
場 所： 右京区役所5階大会議室1  
出席者： 土井部会長 ・ 石川委員  
石田委員 ・ 大西委員  
新妻委員 ・ 山下委員

**道路整備（生活道路・幹線道路）**

---

- 生活をしていく上で、きめ細かい施設、道路網が必要。縦横の道ができるだけではいけない。生活していく上での必要性が重要。生活道路は大切。
- きめ細かさの部分では、右京区内には便利なところもあれば、そうでない場所もある。
- 右京区は京福電車、バス、JRが走り、本当の過疎地ではない。町になるのが早すぎて、都市基盤が追いつかなくなったのが現状。
- 将来を見据えたまちづくりには、都市の基盤整備を長期的に考えていくことが重要。京都市は、西側の右京区などは基盤整備が遅れている。
- 交通は末端にいけば交通量が減るため、道が狭くても良いという考え方もある。狭くとも場所によってはそれで十分。
- 4車線の道路にしても、外側の車線は駐車場のようになってしまっている。新たに幹線道路を整備する場合でも、全て4車線にする必要はなく、人が快適に歩くことができるように歩道を広くとり、車道は2車線という考え方ができる。
- 以前の計画の際に右京の問題点を挙げると、道路問題が多くなっていた。結局、幹線道路がしっかりしておらず生活道路とごっちゃになっている面がある。
- 風致、緑地、古都などの規制をかけて本当の意味での嵯峨野を残すことができた面がある。丸太町の北側については、都市計画道路が入っているが凍結すべき。
- 確かに、都市計画が進んでいない反面で右京区らしさが残ったところもある。
- 本当に必要な道路かどうか、行政も住民も一緒に考えるべき。
- 「右京区としてこの道路が必要。交通量だけでなく、まちの骨格をつくるために必要」ということを、この計画で位置づけるべき。
- 道路ばかりたくさん整備する必要はないが、最低限必要なものについてしっかりと考えていくべき。

**暮らしやすいまち・安全なまち**

---

- 京北地域は医療や福祉関連に弱みがある。以前であればヘリが飛んで対応していたが、最近ではヘリの出動も減っている。
- 救急医療は4分で病院に到着するのが原則だが、京北でそれを実現するのは難しい。

- 右京区は南北で様相が異なり，北部の課題もいろいろある。以前に比べると交通網もかなり改善されたが，まだまだ距離的な隔りがある。特に医療の面では財政的な関係もある。道路網も必要だろうが，北部で，あるいはその近くで医療を充実させるなどの取組が必要では。
- 医療については，人口が少なくても重要な問題。
- 医療などに不備があれば，人口も減っていくだろう。
- お年寄りには簡単に引っ越しすることもできない。
- 北部では，高齢者の独居など高齢者のみの世帯が多い。
- 若い世代が結婚して出て行くことが多い。結局，お年寄りだけが残る。

## 公共交通

---

- 公共交通については，住民の意識を変えなければならない。バスは時間がバラバラだが，地下鉄は便利になった。
- サンサ右京を拠点としたバス網を構築してはどうか。
- 地下鉄が整備され，市バスなどともうまく棲み分ける工夫が必要。
- 地下鉄もいろいろな企画をしている。東西線，南北線を乗り換えても大きく運賃が変わらないのも値打ちがある。ただ，短い駅間は割高感がある。
- 地下鉄と市バスを乗り継ぐと，割引がある。
- 乗り継ぎの割引などはあまり知られていない。
- 嵐電嵐山駅は，建物が店舗のように見えて駅がわかりにくい。京北の公共交通はバスしかない。
- いくら山間部でも，今の時代は自給自足ができるわけでもない。また，高齢社会になると買物にも病院にも行かねばならない。そういったところをいかに手厚くしていくのが問題。
- 相当な高齢者もバイクに乗っているが，運転の様子を見ていると危ない。
- 儲からなくても走らねばならないバスもある。道路整備より，バスを充実させることも大切。
- 停留所がないところで手を挙げて乗るようなバスはできないのか。
- 京都バスが自由降車バスをやっている。また，岩倉では深夜の自由降車バスも運行しておりヒットしている。停車すると危険な場合があるが，時間と場所を考えれば運行に大きな問題は無い。
- 集落がある地域と山間地域とを分けて考えていく必要がある。
- 京北と南側の地域の問題も大きく異なるので，別に考えねばならない。
- 山間部は車やバスを中心とした交通体系を構築し，南側は京福やバスの公共交通，さらには幹線道路をしっかりと整備していくこと，補助的に自転車を活用するようなことが考えられないか。
- 高齢社会に向けて公共交通の利便性向上は不可欠。
- 生活に必要な公共交通がどの程度のものなのか，確認することが必要。
- 観光は嵐山が中心だが，右京区とその近くには世界遺産が4つ（天龍寺・仁和寺・龍安寺・高山寺）ある。日本中でもそんな地域はない。そういった資源を回るバスがなければ，つなぐバスを考える必要がある。
- バスは，観光シーズンは動けないので，嵐電も活用すべき。
- 公共交通の優位性を確保する必要がある。

- 公共交通の利便性を高めるところにお金を使える仕組みができればよいのでは。
- 若い人の意識も変わってきており、「車第一」と考える人が減っているのでは。

## 自転車活用・駐輪問題

---

- 西院まで行くバスのルートから外れる人が自転車に乗ってくる。南側などは自転車が捨てられているような状況。
- 西院には京都市営の駐輪場もあるが知られていない。
- 駐輪場の利用状況としては満杯。高校生の定期利用が多い。
- 駐輪できる台数が足りていない状況があるのでは。
- 内閣府の駅前放置自転車の調査があるが、最も多い駅は名古屋駅。都市は大阪。京都では、最も多い駅が京都駅で、2番目が西院駅。
- 行政がリードして有料駐輪場の整備を促進できないか。
- 駐輪問題はマナーに訴えかけても解決しない。いろいろな工夫が必要。
- JR花園駅では、ボランティアの方ががんばっているので駐輪が少ない。
- 西院周辺などは100円パークが増えてきている。
- 自動車が1台駐車できるスペースに自転車が10台駐輪できる。西院の放置自転車が多いのは、西院駅にやってくる人の分だけでなく、西院駅で降りてからどこかへ向かう人の自転車もあるから。例えば桂駅にあるレンタサイクルのような取組ができれば、自転車の台数は少なくて済む。ただ、それを実施する空間が見当たらない。
- 自転車の3人乗り（6歳未満の子供を2人、安全基準を満たした自転車に乗せられる）が法律で認められた。自転車自体が少々高額だが、利用者も増えるのでは。
- 基本的には自転車に乗ってもらいたいが、停めるスペースを確保する必要がある。
- 店舗をつくっても、自転車や自動車が停められるスペースがあればよいが、歩道いっぱいまで建物を広げられるのはいかなものか。
- 自転車に対する価値観も変わってきている。今は撤去されると受け取りに行かない。
- 細街路が多い右京区では自転車の活用も面白い
- 自転車で京北方面の道路を走る人もいるが、中には無灯火でトンネルを走る人もいて危険。

## 商店街の活性化・価値観の転換・地産地消・右京の魅力

---

- 大映通商店街では、内閣府の「地方の元気再生事業」に採択され助成がついた。イベントに取り組んだり、映画村などの資源はあるが、なかなか活性化が難しい。
- 後継者の問題が大きい。
- 商店街で店を出したいという人を入れたらよいのでは。
- 公募などに取り組むべき。昭和のまち豊後高田に行ってきたが、まちの人がまちを再生するというコンセプトでがんばっている。人に頼るのではなく自らの手でがんばっている。閉店している店舗にもやりたい人を入れている。
- イベントで一時的に人が来ても仕方ない。日常的に使ってもらうことが大切。
- 対面販売で料理法などの情報も伝えられるような、スーパーにはないところを出していかなば

ならない。息の長い取組が必要。

- 今の若い人は店の人と会話して物を買うことがおっくうのようである。
- 顔見知りになればよいが、そこまでいかないことがある。他所から移り住んでくるとどうしても、会話ができるようになるまで時間がかかる。
- 野菜を売ったりしていると、ちょっとしたコミュニティができる。若い奥さんやおばあさんといろんな話をする。
- もらい物の受け渡しで交流や賑わいも生まれる。
- そういう交流の場が求められているのではないか。物を買うだけでなく人との交流を通し、仲間ができたり、子どもを育てていくうえで安全な環境が築かれたりすることもある。
- 身近なところで生産もできる。
- 嵯峨から野菜を売りに来る人もいて、地元では当てにする人もいる。右京区こそ、こういう取組を積極的に進めるべき。
- 大型スーパーとは違う、対面販売の地産地消の取組といった方向も考えられる。
- 今、安全・安心が問われている。鮮度も大切。ものが安ければよい時代ではない。
- 先ほどの話と関連付けると、環境・高齢化社会・安全を考えると、安だけ・効率追求だけではいけない。バスの利用を増やしたり、対面販売したり、生産者と直接結びつけることなどが考えられる。「我々はこのように考えたが、皆さんはどうですか」といったメッセージを発していくことができないか。
- 地域で通用する通貨を発行することも考えられないか。
- 便利だけを求める時代ではなくなってきている。
- 京北は少し車で走ればよいところもたくさんあり、野菜市のようなものもある。生産者の顔写真も貼ってあり、生産者の顔が見える。右京の新しい魅力である。
- ここでは京野菜が有名。コシアブラという山菜があり、若い人がそれをみて食べ方を販売者に聞いていた。こういったことも売りになるのでは。
- 地産地消が広がる場所がもっとあってもよいのでは。